

中国語教育における「インターネットオンデマンド授業」の導入

早稲田大学大学院文学研究科 佐藤浩一
dufutoho@asagi.waseda.jp
早稲田大学大学院文学研究科 土谷彰男
aktsuchiya@suou.waseda.jp
早稲田大学文学部非常勤講師 横田文彦
f-waangtin@toki.waseda.jp
早稲田大学文学部教授 楊達
yoht@waseda.jp

1. はじめに

早稲田大学第一文学部の初級中国語の授業では、段階的に中国語学習システムを導入し、集合型授業において、学習効率を図ってきた。2004年度ではこれらの成果を踏まえて、授業カリキュラムに関連する実験を行うことになっている。本発表はコンピュータ授業がどのように教育システムをも変えうるのか、という可能性について考えるものである。

2. これまでの開発過程

CALL 授業を導入する前までの早稲田大学第一文学部の中国語のカリキュラムは共通教材を用い、週4コマのリレー形式で授業が行われていた。これに対して、2002年では、将来の大学における語学教育の改革を視野に入れ、二つのクラスに限って週4コマコンピュータ教室を使用し、リスニング重視の授業を試験的に展開することになった。両クラスの学生数はそれぞれ43名で、一週間の間で月、水、金、土に授業があり、教材は《Dig 中国語学習システム》を採用した。また、各課を前半、後半に分け、担当者もそれぞれ分担を決め、前期はできるだけこの形をくずさずに授業を行った。《Dig 中国語学習システム》は主に前半の授業で約30分から40分ぐらいの時間で使用した。一方後半の本文聞き取り用のシステムはなかった。

その後、2003年ではTRC⁽¹⁾のオンデマンドシステムにある小テストのシステムを活用して、本文書き取り用のコンテンツを製作した。これにより、2003年度の実験クラスでは前半《Dig 中国語学習システム》を利用し、後半はオンデマンドシステムのコンテンツを使うことができ、学習効果をいっそう高めることができた。

3. コンピュータ授業導入に対する評価

2002年7月、システムに対して客観的な評価をするために、初級クラスの前期試験では中国語検定4級の過去問題を受講者に受けさせた。結果は、下表のとおりである。

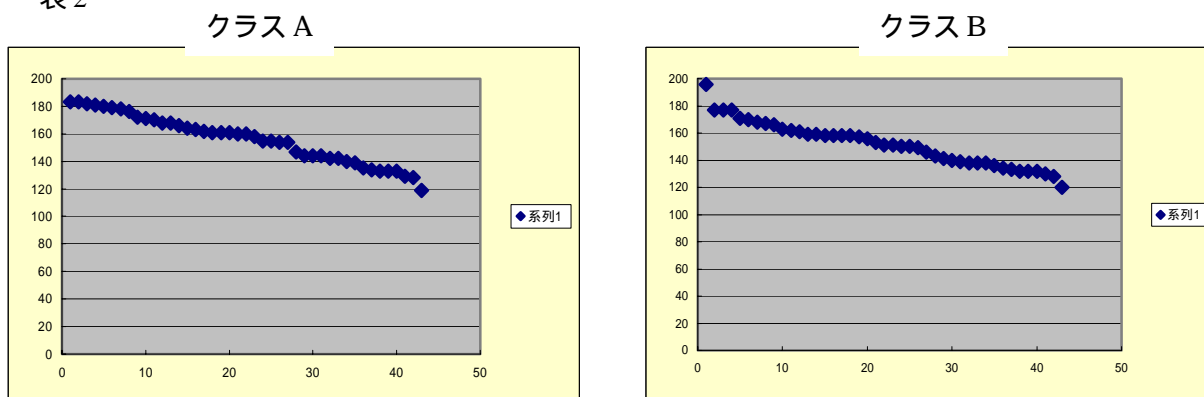
表1

クラス	リスニング	筆記	合格率
A	83.372093	72.697674	88%
B	80.930233	70.744186	86%

中国語検定協会が発表した4級の基準は、「日常生活語彙500~1000ならびに中国語文法の基礎的事項をマスターして、平易な中国語を聞くこと、話すことができるもの。聞き取りを課す。一般大学の第2外国語における第一年度履修程度(120~200時間)」である。これに対して、実験クラスの被験者の学習時間は60数時間でしかなかった。

また、表2の学習者の成績分布を見ても、高得点群と低得点群の得点差は相対的に低く、全体的に学習効果もあったことが観測された。

表 2



さらに、2003年にオンデマンドを導入して、前年度と同じ試験を受けさせたところ、平均点が4~6点上昇し、合格率にすると97.4%(不合格者3名)であった。

実験クラス以外のクラスでも2003年から週2コマはコンピュータ教室を使用して、オンデマンドシステムを導入している。その上、Web対応の《Dig中国語学習システム》をも2003年度から開発に着手し、2004年度で各クラスのオンデマンドシステムに導入し始めている。いろいろな課題はまだ山積しているが、一定の成果を上げているのは確かである。

オンデマンド + Web版 Dig



4. 今後の計画

このように、早稲田大学第一文学では段階的に《中国語学習システム》を開発し、集合型の授業に導入することで、通常の授業では期待できない学習効果を得ていることが明らかになった。しかし、オンデマンドシステムの特徴を考えると、必ずしも集合型授業で利用する必要はない。むしろ、時間と空間の制約をなしに学習できるようにすることでその特長を生かせるのではないだろうか。また一方では、集合型の授業で会話を教えるには、40名近い数は理想的な環境から程遠い。以上のことから、オンデマンド授業を自宅学習に移すことによって、教員の数を増やすことなく、大学での対面授業を少人数編成に変えることはできないか、ということを考えて新たな実験を行うことにした。時期は6月の末から2週間を予定しており、本発表は主にこの実験の結果について報告するものである。

注(1)：2001年度(平成13年度)に文部科学省の私立大学学術研究高度化推進事業「学術フロンティア推進事業」に選定された。TRCとは、早稲田大学文学部においてインターネットオンデマンド方式による遠隔協調型授業を推進する戸山リサーチセンターの略称。インターネットをはじめとしたネットワークを利用することにより、新しい教育研究スタイルの確立へ向けた研究を推進することをその目的としている。